

【漢詩の種類】 七言絶句

【原文】

題… 泊秦淮 作者… 杜牧

煙籠寒水月籠沙

夜泊秦淮近酒家

商女不知亡國恨

隔江猶唱後庭花

【訓読文、読み下し文】

題… 秦淮に泊す

煙は寒水を籠め 月は沙を籠む

夜 秦淮に泊まりて酒家に近し

商女は知らず 亡国の恨み

江を隔てて猶お唱う 後庭花

【語彙説明】

「秦淮」は南京市の南を流れて長江にそそぐ秦淮河。船旅では夜は岸边に停泊して一夜を過ぎす。

「籠」はすっぽりと覆う。「商女」は妓女、歌い女。

「亡国恨」は陳の宮廷が歌舞に溺れているうちに、隋軍に侵入されて滅ぼされた痛恨の思い。

「隔江」の「江」は秦淮河。その向かい側の「酒家」から歌が聞こえてくる。

「後庭花」は陳の後主がみずから作って宮女たちにうたわせた「玉樹後庭花」。

南朝の頽廢を象徴する歌。

### 【現代口語文】

題… 秦淮しんわいに泊まる

靄もやは寒々とした川を覆い、月の光は岸边の砂を覆う。

夜、秦淮で舟に泊まれば、そこは酒樓の近く。

歌姫は中にこめられた亡国の恨みも知らず、川の向こうで、今なお「玉樹後庭花」をうたう。

### 【詩情】

にぎやかな歓楽街から聞こえてくる歌声は、かつて陳の滅亡をもたらした「玉樹後庭花」。

そうとも知らずに享樂に耽る世態を批判しているわけではない。

往時の華やぎと重ねつつ、いつの世も変わらず快樂に淫する人の営みに、いくらか哀感を帯びた感慨を抱く。

### 【出典】

『新編 中国名詩選』（下） 編訳者…川合康三 岩波文庫 2015年3月17日発行